

第2学年道徳学習指導案

平成28年10月19日(水) 第6校時
四万十市立東中筋中学校 第2学年 13名
授業者 三村幸子 中山文 弘田靖

- 1 主題名 心から信頼し合える友達 B - (8) 友情、信頼
- 2 ねらい 友の本当の気持ちに気づくまでの主人公の心の変容を考えることを通して、友達の個性を理解し、心から信頼できる友達関係を築いていこうとする態度を育成する。
- 3 資料名 「ブルースター」 (出典:「ふるさとの志」高知県教育委員会)

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の考え方〔指導観〕

内容項目B - (8)は「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深める」ことを目指している。人間として互いの特徴や個性を尊重し、友達を求め、友達への期待も高まるこの時期には、友達との関係に時には悩み、友達であるからこそ意見がぶつかることもある。これらの悩みや葛藤を乗り越えることで、真の友情は培われていくものである。

指導にあたっては、相手の内面的な良さに目を向け、互いに励まし合ったり忠告し合ったりすることによって信頼が生まれるということ、友情はその信頼を基盤として成り立つということに目を向けられるようにしたい。

(2) 生徒の実態と教師の願い〔生徒観〕

本学級の生徒は、保育園・小学校・中学校と、ほとんど大きなメンバーの変化がなく、お互いをよく知る関係である。しかし、友達の良さや頑張り目に目を向ける優しさやともに頑張りとうとする気持ちなどには弱さを感じられ、序列の固定化も見られる。一人ひとり真面目だが、集団の中で素の自分を出せず、周囲の言動に合わせてしまいがちな面もある。

そういった生徒たちに、豊かな人間関係を築くためには、お互いの個性を認め合い尊敬の気持ちを持つことが大切であることを理解させ、友達であるからこそ生じる悩みや葛藤を共に乗り越え、信頼に裏打ちされた真の友情を築こうとする態度を育てたい。

(3) 使用する資料の特質及び生徒の実態とかかわらせた指導の方策〔資料観〕

資料では、主人公が、キャプテンとして必死になるあまり、自分を信頼してくれている友だちの思いに気づかずいら立つ様子と、その思いを知って友情の尊さに気づいていく気持ちとが描かれている。心から主人公のことを思い、信頼し、支えようとしてきた友の本当の気持ちに気づくまでの主人公の心の変容を考えることを通して、信じあうためには、まずお互いをよく知ることが大切であることに気づかせるようにしたい。また、今まで友だちに助けられたことなどを思い出させ、友だちに対する感謝の気持ちを持たせ、心から信頼できる友だち関係を築いていこうとする態度を育成したい。

5 本時で期待する生徒の姿

〔授業前の生徒の考え方〕

- ・とりあえず合わせておこう
- ・他の人のことにはあまり関心がない
- ・自分の本心はあまり知られたくない
- ・あの人はあんな人だ、と思っている

→ 〔授業を通して高めたい生徒の考え方〕

- ・友だちの新しい面を知るのが楽しい
- ・お互いに個性を認め合いたい
- ・信頼できる友達関係を作りたい

8 板書計画

ブルースター

友達

- ・一緒にいて楽しい
- ・話が合う 趣味が合う
- ・相談できる

挿し絵

夏美と顔を見合わせて笑った

- ・夏美がいて心強い
- ・夏美がいたら頑張れそう

夏美を置いてかけ出した

- ・夏美だけはわかってくれると思っていたのに。
- ・誰もわかってくれない。
- ・これでうまくやっついていけるのか。

「夏美・・・。」といった時、千尋は

どんなことを考えていたのだろう。

- ・私のことを信じて励ましてくれていたのに、ひどいことをしてしまった。
- ・自分のことしか考えてなかった。

信頼し合える関係になるには

9 他の教育活動との関連

